

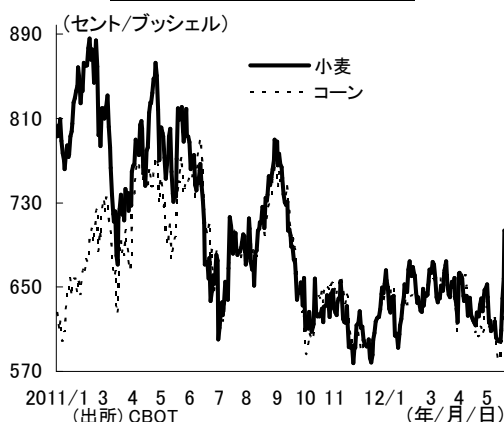


## 再上昇する小麦価格

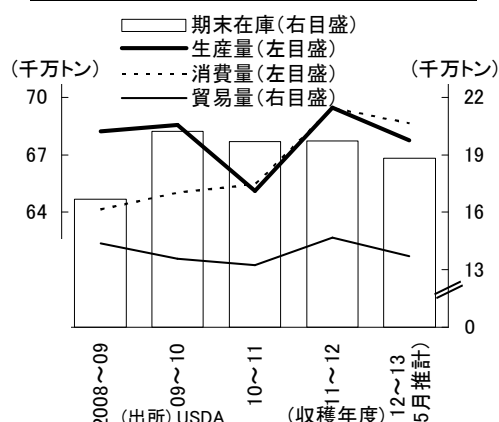
～ 起点は需給逼迫懸念 ～

- (1) 5月半ばから小麦価格が急上昇（図表1）。昨年10月以降、1ブッシェル当たり6ドル前後で推移。しかし、15日の始値5.99ドルから連日急騰。21日には同7.04ドルと、昨年9月15日以来8ヵ月振りの7ドル台乗せに。近年、小麦との連動性が強まっているコーン価格も15日以降、強含み。21日には同6.40ドルへ。
- (2) 主因は小麦の生産減懸念。価格上昇に転じた直前の週末10日、米農務省が小麦予測発表（図表2）2012～13収穫年度の世界の小麦生産量は前年差▲1,708万トン。近年では同▲3,430万トン減少した10～11年度以来の大幅減。ちなみに同年は、ロシアやウクライナが泥炭火災で小麦生産が落ち込み、禁輸で国際価格が上昇。食料不足が深刻な国際問題となり、チュニジアやエジプト動揺の導火線へ。そうした観点からみれば貿易量も焦点。12～13年度の世界小麦貿易量は前年差▲972万トン減少し、09～10年度や10～11年度にほぼ肩を並べる1億3,702万トンに落ち込む見通し。
- (3) 主要国別にみると、12～13年度の世界小麦生産減はまず早魃に直撃されたウクライナやカザフスタンが主因（図表3）。次いでEUも異常気象に直撃。最もダメージが大きい国はポーランド。フランスやドイツ、ハンガリーも打撃。さらに、オーストラリアやアルゼンチン、北アフリカなど多くのエリアで生産減。小麦価格上昇で生産者の生産意欲は旺盛ながら天候要因が阻害。
- (4) 一方、コーンの生産量は、価格が12～13年度4.6ドル/ブッシェルに弱含むなか、限定的な増加にとどまる展開が米農務省の見通し（図表4）。しかし市場価格はすでに強含み。6月半ばまで1か月、播種期を残すなかでの値上がりは、作付け変更を含めコーンには生産増、小麦生産にはマイナスに作用するリスク。前年比生産増予測の中国でも小麦生産エリアで本年初早魃が拡がり。小麦価格は米農務省が想定する5.5～6.7ドル/ブッシェルをすでに凌駕。今後、一段の値上がりが視野。

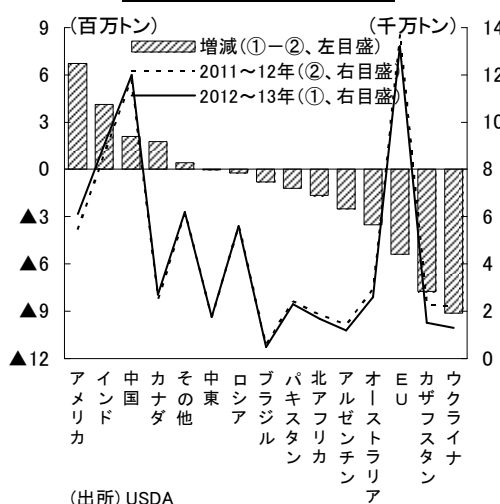
（図表1）小麦価格とコーン価格



（図表2）世界の小麦生産・消費・貿易・在庫量



（図表3）主要国の小麦生産



（図表4）アメリカのコーン消費量と植付面積、単価

